



エコマーク コミュニケーション フォーラム

# 2013年度 エコマーク年次活動報告

---

公益財団法人日本環境協会  
常務理事・エコマーク事務局長  
宇野 治

---



# 目次

1. 新たな商品分野のご紹介
2. 認定商品数と商品類型数の推移
3. 普及啓発活動
4. 国際協力活動
5. 今後の取り組み
6. 最後に



# 1. 新たな商品分野のご紹介



# 1. 新たな商品分野のご紹介

## 新たに下記の認定基準を制定

- テレビ
- 乳幼児用品
- 太陽熱利用システム
- 詰め替え容器・省資源型の容器  
(適用範囲の拡大: 無菌包装米飯容器、PET ボトル)



# 1. 新たな商品分野のご紹介(その1)

## テレビ

2013年3月12日制定



- 従来から表示が行われている省エネ性能にとどまらず、省資源や資源循環、有害物質の削減等、製品のライフサイクル全体における環境負荷が総合的に考慮された基準を策定
- 日中韓相互認証において共通基準を策定予定



# 1. 新たな商品分野のご紹介(その2)

## 乳幼児用品

2013年5月8日制定



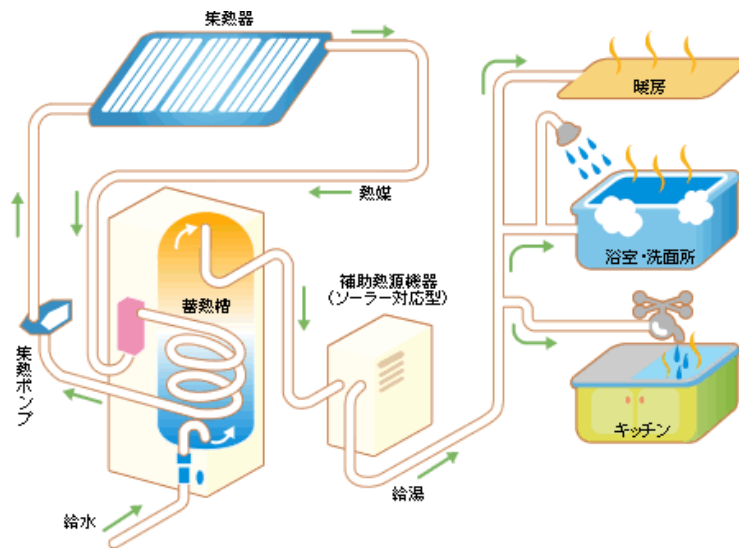
- ベビーカー、ベビーラック、チャイルドシートなどを対象
- 環境省の広域認定制度に基づいた使用後の回収・リサイクルシステムとリサイクルするための製品設計を評価
- 乳幼児の健康影響などについても重要な視点と捉えて、総合的な環境負荷を低減する基準を設定



# 1. 新たな商品分野のご紹介(その3)

## 太陽熱利用システム

2013年10月1日制定



- 太陽熱を利用して給湯、暖房等を行うシステムを対象
- 太陽熱利用の基本性能に加え、太陽熱を有効利用できる機能、施工品質や維持管理体制などの長期使用、有害物質の低減など、地球温暖化防止を中心に総合的な環境性能を評価

# 1. 新たな商品分野のご紹介(その4)

## 詰め替え容器・省資源型の容器

(適用範囲の拡大:無菌包装米飯容器、PET ボトル)

2013年10月1日制定



画像:越後製菓提供

- 包装米飯容器の軽量化度を評価
- 指定PETボトルの軽量化度、または再生材料の使用を評価
- 容器の素材や製造段階で使用される可能性のある有害物質の使用抑制、使用後のリサイクル性などについても確認





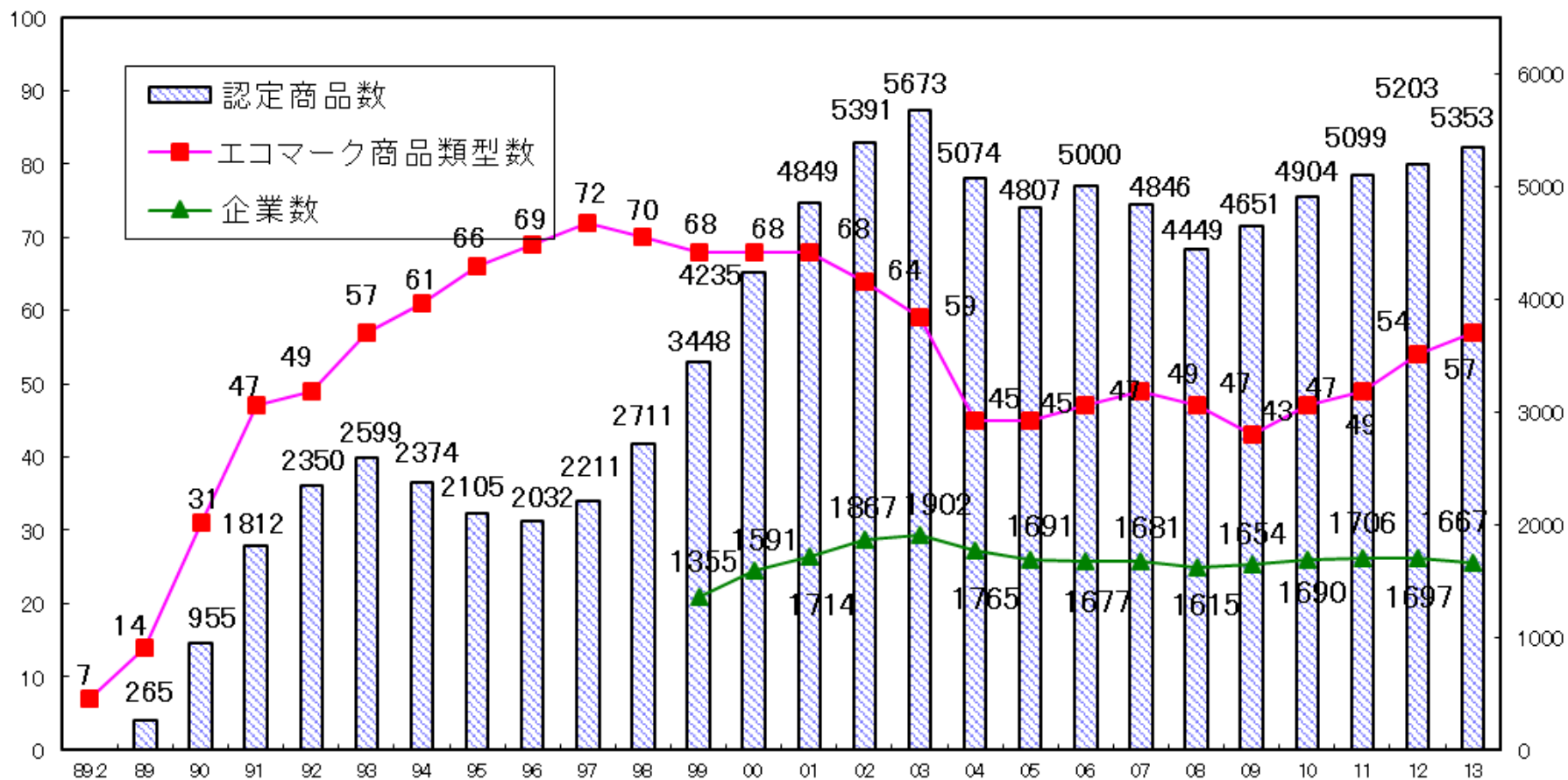
## 2. 認定商品数と商品類型数の推移



## 2. 認定商品数と商品類型数の推移

- 認定商品数: 5,368
- 認定企業数: 1,663
- 商品類型数: 57

2014年1月末現在





# 3. 普及啓発活動



# 3. 普及啓発活動(消費者向け)

## イベントフェアへ出展



2013エコプロダクツ展

その他、地域フェアなどにも多数出展しました



### 3. 普及啓発活動(企業向け)

- ・企業向けセミナー
- ・エコマークアワード
- ・認定基準説明会、グリーン購入法説明会
- ・その他、展示、フェア、イベント等



アジアのグリーン公共調達セミナー(12月)

ドイツ・欧州の最新環境事情セミナー(11月)





### 3. 普及啓発活動(その他)

#### 媒体による普及啓発

- ・メールマガジン
- ・ウェブサイト
- ・展示、フェア、イベント等                      など

#### 企業、自治体等と連携した普及啓発

- ・ATCエコマークゾーンの展示
- ・東海三県一市キャンペーン
- ・エコマークのシンボル利用の推進
- ・グリーンステーション等への掲載    など



エコマークの常設展示  
(大阪・ATC)



## 4. 国際協力活動



## 4. 国際協力活動(その1)

### ■ 世界エコラベリング・ネットワーク(GEN)での活動

- 1997年設立(日本は発起団体)
- 26のラベル機関が加盟
- 設立当初より、役員および総務事務局を担当
- 2012年GENICES認定を取得済
- 役員会(4月、ベルリン)、年次総会(11月、ブリュッセル)に出席



#### \* GENICES:

GEN による監査システム。

基準策定方法や組織体制などについて、ISO14024(タイプ I 環境ラベル)規則に則って運営されているかなどを GEN の「専門家による評価パネル」により評価するもの。







## 4. 国際協力活動(その2)

### 相互認証に関する活動実績

時期	会議名称	内容
6月	タイ環境ラベル-エコマーク相互認証ワーキング	プリンタおよび複写機の共通基準項目を決定するとともに、認証スキーム等について議論
7月	中国環境ラベル-エコマーク相互認証ワーキング	相互認証申請に関する書類の確認、認定後の監査等の協力等
9月	日中韓環境ラベル実務者会議	DVD機器およびテレビの共通基準項目の設定・確認作業等
10月	日中韓環境産業円卓会議 (RTM)	9月の3カ国会議報告等 DVD機器の共通基準に関する合意書締結



## 5. 今後の取り組み



# 5. 今後の取り組み(その1)

## 環境のシンボルとしてのエコマークを目指して

- 社会的認知度を一層高める
- 購買場面において広く利用される環境ラベルとなる

### エコマークの 機能強化

- ・戦略的な新規商品分野の拡充
- ・国際動向も踏まえた基準の設定
- ・基準適合性確認体制の一層強化
- ・消費者等に有効な環境情報の提供

### コミュニケーション 強化・連携

- ・「エコマークアワード」の強化
- ・各機関と連携した情報発信

### 国際的取組の 強化

- ・相互認証の推進、情報収集・分析



## 5. 今後の取り組み(その2)

### 新規商品分野の拡充

- プラスチック製容器包装廃棄物をケミカルリサイクルした化学製品(仮称)
- 複合機Ver3  
(複写機、プリンタなどの画像機器)



## 5. 今後の取り組み(その3)

### 海外ラベルとの相互認証の推進・強化

- 日中韓環境ラベルの相互認証

- テレビの共通基準の検討
- 新たな商品分野への取り組み
- 相互認証運営スキームの確立、協力の深化



- タイグリーンラベル

プリンタ、複写機などにおける相互認証ケーススタディの検討



- その他(ドイツ、台湾、北米、北欧、NZなど)



MARKS SHOWN ARE FOR ILLUSTRATIVE PURPOSES ONLY



## 6. 最後に



## 6. 最後に

エコマークは本年2月に25周年を迎えました



エコマークは、商品カテゴリの拡大や、消費者・事業者への普及活動、海外環境ラベルとの相互認証を積極的に展開し、より身近なラベルを目指して参ります。

今後とも、皆様のより一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

財団法人日本環境協会は、2013年4月1日に公益財団法人に移行しました。



**ご清聴ありがとうございました。**